

令和6年6月10日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

智頭町議会議員 仲井 荃
西尾 寿樹
岡田 光弘
宮本 行雄
田中 賢
波多 恵理子
大河原 昭洋
安道 泰治
谷口 雅人

議員派遣結果報告書

令和6年4月4日に決定された議員派遣について、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和6年4月19日（金）

2. 場 所

八頭郡八頭町船岡539番地1 「船岡地区公民館」

3. 内 容

鳥取県東部町議会議長会議員研修会

講 演

演題：「できるかできないかではなくやるかやらないか」

講師：SMB C日興証券株式会社所属

パラリンピックアスリート 三澤 拓 氏

4. 所感等

今年度の研修会は今年パリオリンピック・パラリンピックが開催されること

もあり、多様性を尊重する社会づくりという意味合いを込めて障がい者アスリートの三澤拓（みさわひろく）氏が講師で招聘された。

三澤氏は6歳の冬、家族と一緒にクリスマスプレゼントを買いに出かけた帰り道、大型トラックにひかれて左脚の太ももから下を失った。病院で左脚を切断する手術をした後、片足を失ったことを嘆く父親とは対照的に、三澤氏の母親は「拓の左脚は天国へ行ってしまったけど、命があるから頑張ってる生きてね。自転車にも乗れるし、何でもできるから大丈夫」と伝えた。まだ幼かったが、この「何でもできるから大丈夫」という言葉がずっと頭の片隅に残っていたということである。

小学校に入ってから義足を使用して様々なスポーツに挑戦し、8歳からはスキーを始めた。並行して野球チームにも所属し、夏は野球、冬はスキーの生活を送り、15歳からパラアルペンスキーのナショナルチームに加入し、国内大会で優勝も経験。これからは世界だと思い、英語とスキーを学ぶため海外の高校に進むことを決意したが、何となく決断できない三澤氏の背中を押したのは、またも母親の「いいんじゃない」という一言だった。世界で戦うことを見据えてニュージーランドの高校に入学し語学とスキーを学び、パラリンピック初出場となった2006年トリノパラリンピックでは回転で5位入賞し、以来5大会連続でパラリンピックに出場している。

片足を切断するという事は、私たち健常者にとって想像すら出来ないが、三澤氏は周りの心配をよそに、障がいがあることを悲観することなく目標に向かって進んできた。そこには三澤氏のチャレンジを後押しした母親の数々の言葉があったと感じた。この前向きな言葉があったからこそ、いろいろなことに挑戦できたのだろうと思う。「何事にもチャレンジすることが大切であり、仮に結果は出なくても一生懸命やって、頑張ってる笑顔で終われることが大切」という言葉が特に印象に残った。また、SMB C日興証券の経営理念として、「多様性の尊重」を掲げておられ、障がい者を含む多様な人々がいきいきと暮らしていける「共生社会」の実現に取り組んでおられることに、感銘を覚えた。